

舉に清瀨一郎氏を推した。その結果として、議長は際どいところで政友會の元田肇氏當選し、副議長に清瀨一郎氏が當選した。田中反動内閣打倒を標榜する以上、當面の戦術として有らゆる場合に政友會の立場を不利に陥れるべきであるに拘らず、我黨以外の無産黨代議士諸君が一種の觀念論に囚はれ、結果として政友會を利せしめたことは我等の最も遺憾とする所であつた。

(2)、野黨聯合協議會

田中内閣打倒のため、出来る限り野黨各派の歩調を一致するこの必要を認めた結果、共同委員會に於いて我黨は野黨聯合協議會の開催を提唱して、その容るゝ所となり、更に共同委員會の提唱により、四月十八日に院内に於て第一回野黨聯合協議會を開くに至つた。その後引きつゞき數回に亘つて聯合協議會を開き、内閣不信任、内閣彈劾其他の問題に關し、野黨の歩調一致に關し貢獻する所が多かつた。

(3)、内務大臣彈劾

選舉干渉、言論抑壓、暴力圍看過等の理由に依つて内務大臣彈劾の空氣院内に濃厚となるや、四月二十一日の共同委員會は「現内閣倒潰に向つて猛進し來つた我等は、内相彈劾を以て倒閣を期する有力なる一手段と認め、無産黨議員團は一切の内相彈劾の勢力を糾合して極力内閣倒潰を期す」との決議を可決し、明政會提案の内相彈劾を含む政治國難決議案を中心として野黨戦線の共同に努力した。二十七日頃より政局は俄然政府及び與黨に取つて不利となり、政府は狼狽して二十八日、五月一日の兩度に亘り各三日間の停會を奏請したが之に對して無産黨議員團は停會に關する詰問的聲明書を發して政府の採れる醜劣なる行動を痛撃した。政府の形勢依然として不利を示し、再解散か、總辭職か、内閣改造の外なき状態となり、遂に膝を屈して内相を引責せしむるに至つた。

(4)、内閣彈劾

政府は選舉干渉其他の重大失政の責を獨り内相にのみ歸し、依然として職に留まつたので、無産黨議員團はこれを追撃して打倒の目的を果たすため、民政黨の内閣不信任案に合流したのであるが、野黨の

議會最終日に審議未了のため、これが葬れるに至つた。

(5)、無産黨代議士の活躍

四月二十六日の本會議には西尾末廣君が登壇して、全無産階級を代表して國務大臣に對する質問演説を試み、田中内閣の反動的社會運動取締りを糾弾し、社會立法の無誠意を難詰し、失業問題、中小商工業者俸給生活者等の生活問題にも言及した。これに對する各國務大臣の答辯は曖昧且つ無誠意であつた。五月四日停會開けの本會議に於いては、日勞黨より河上丈太郎君登壇して、政治國難修正案に賛意を表し、この決議案を以て「現内閣の全體的不信任の前驅戰」と信するが故にこれに合流する旨を明かにした。五月五日の本會議には我黨の龜井貫一郎君が、四月二十九日本所公會堂の田中内閣打倒民衆大會に於ける警官暴行事件に關し辛辣なる質問を試みた。翌六日の經濟匡救決議案が上程されるや、舊勞農黨の水谷長三郎君、我黨の西尾末廣君は無産階級的立場から批判的質問をなし、採決には全部棄權した。

尙ほ共同委員會の決定に従ひ、健康保險法及び衆議院議員選舉法の改正案が五月四日無産議員團より議會に提出されたが、會期切迫のため日程として上程さるゝに至らなかつた。